

## 海難防止標語

「古すぎる それでいいのか？ 安全意識」

## 死亡・行方不明者がセンター設立以来、最小となる

令和5年(1月~12月)の海難発生状況速報値(第一管区海上保安本部)によると、北海道周辺海域で発生した漁船の海難事故による死亡行方不明者は6名で、センター発足後最小の数値となる見込みです。

改めて、関係機関をはじめ多くの関係の皆様のご取組とご支援、ご協力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。

当センターが発足した昭和49年当初、年間180名を超える多くの方々が、海難で死亡行方不明となっておりますが、約半世紀で当初の3%ほどにまで減少しました。当然、時代とともに技術が進歩し、船体、機器類、漁具等は格段に性能が上がり、作業効率もよくなり、安全性も高まり、一概に対比することは出来ませんが、減少したことに関し、安全に対する認識が全体に浸透した結果と考えております。

具体的に、「浮いていて救助された」「事故回避出来た」などの結果を表すことはできませんが、ライフジャケットの着用率の向上が死亡行方不明者の減少した一番の要因であったと思っております。

しかし北海道の場合、特に注意すべきなのは、海中に転落した際の水温です。北海道周辺海域の水温は夏場の1か月程度はある程度高くなるものの、通年を通して低い状態となります。浴場等にあるサウナと併設されてある水風呂でさえ18度前後の設定が多く、入られたことのある方はご理解いただけますが、サウナに入った後でさえ肩まで浸かった状態で30分、いえ15分でも冷たさに耐えられない方が多いと思います。実際冬期の海水温は、結氷していなければ-1.8度以上ありますが、殆どの地域で3度~8度の水温となる地域が多く、非常に冷たく厳しい水温となります。1~5度の水温であれば、15~30分で意識不明に至るとされており、特に水温が低ければ低いほど早い救助が必要となります。

ライフジャケットを着用していれば、浮くことは出来ますが、水温の関係から残念な結果になることも考えられますので、どのような場所でも、早急に救助要請ができる機器類の使用など、自分と仲間ですっきりと、安全に対する考え方、連絡体制を見直されて、海難のない浜を築きましょう。

## 海難防止標語

「その認識 時代に合わせると否定され 実は時代の最先端」